

令和4年度第2回小牧市高齢者健康生きがい推進支援事業検討委員会 議事録

日 時	令和5年2月17日（金） 10時00分～11時00分
場 所	小牧市役所東庁舎 5階 大会議室
出席者	<p>【委員】（名簿順）</p> <p>関 哲雄 特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク事務局長 廣畑 英治 公益社団法人小牧市シルバー人材センター 常務理事兼事務局長 高木 敏行 春日井公共職業安定所 統括職業指導官 田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会 在宅福祉課長 山田 好広 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会 ボランティアセンター所長</p> <p>【事務局】</p> <p>永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課長 岩下 貴洋 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係長 前川 桂佑 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係主事</p> <p>【欠席者】</p> <p>野中 宏朋</p>
傍聴者	0名
配付資料	資料1 高齢者がいきいきと輝くまちづくり事業 ～令和4年度実績及び次年度計画～

1. 開会

2. 議題

（1）令和4年度実施事業報告について

- ・ 資料1（1～15ページ）を用いて事務局より説明。

廣畑委員）

- ・ 資料1：4ページに記載されているように、2月20日には剪定実技講習会を開催し、一般募集の市民の方が5名、会員が10名、合計15名の参加を予定しています。当然、市民の方は、入会説明会も出ていただいて、シルバー人材センターの会員になるように誘導したいと思っています。
- ・ 心身リフレッシュ美容教室は、女性をターゲットにハンドケアをテーマとし、外部から講師を招へいし、12名ずつの2部制で開催します。講座実施後、女性委員会の茶話会に講座を受講される方にも参加いただき、シルバー人材センターの会員とのコミュニケーションを取っていきいたいと考えているところです。
- ・ また、来年度は、下半期に30回程度、スマホ教室を開催したいと考えています。
- ・ 資料1：6ページに記載があるアクティブシニア就職フェアに関連しますが、愛知県労働局やハローワークの催しには可能な限り、ブースを出し、担当職員が出向くようにしています。実態としては、相談実績は少ない状況ですが、特に労働局の催しには他市からも来られますので、小牧市内開催ということで出展をし、相談を受けております。
- ・ 総合相談窓口のPRについて、以前よりも進んでいる中、相談が少ない状況ではありますが、来年度に向けて、シルバー人材センターとしても積極的なPRや総合相談窓口への誘導をしていきいたいと考えております。

田中委員長)

- ・ 就職フェアに参加して、手応えはいかがでしょう。

廣畑委員)

- ・ フェアの参加者は、若い方も多く、定年後、70歳まで継続雇用を経た方も多いこともあり、シルバー人材センターに相談される方は多くありません。
- ・ シルバー人材センター自体の周知を行うためにも、出展をさせていただきました。

高木委員)

- ・ 資料1：6ページのウ：アクティブシニア就職フェアは、事業所数が記載されておりませんが、19の事業所が出展されました。
- ・ アクティブシニア就職フェアは、多くの企業に出展いただけるように春日井市の総合体育館で開催し、シニア就職面接会はハローワーク春日井で開催しました。
- ・ 2つの催しを比較しますと、アクティブシニア就職フェアは参加企業数が多い割に参加者数が少なく、シニア就職面接会は、事業所数は1桁にも関わらず、参加者数は倍以上という結果でした。
- ・ シニア就職面接会の会場でありますハローワークは狭く、事業所数は少ない中、多くの方が参加した一方で、アクティブシニア就職フェアは会場が広くて事業所は多い中、なぜ参加される方が少ないのかというところに矛盾を感じる場所ですので、今後、検証して次年度の方向性なども考えていきたいと思っています。
- ・ 総合相談窓口は、ボランティアから就労までどのような相談があっても対応できるように参画させていただいております。実績として参加者数を見てしまっていますが、ワクティブこまきで総合相談窓口があるという認知度を上げる視点も重要だと考えるところです。

田中委員長)

- ・ シニア就職面接会の方が会場は小さいにも関わらず、参加者が多いというのは疑問を感じる場所です。

高木委員)

- ・ シニア就職面接会は、当日にハローワークの館内アナウンスによるPRを行うなどしましたので、別の目的で来所された方も参加されたかと思えます。
- ・ アクティブシニア就職フェアは春日井市総合体育館で開催しましたので、就職などに関心がないと足を運ばないと思えます。
- ・ 事業所数が多いので、興味をもってもらえる可能性は高いように思いますが、参加者数が少ないというのは正直分らない場所です。面接会という名称であるものの、相談するための催しであることを周知しておりますが、面接をしたり、書類が必要と思われてしまい、少し堅く感じられているように思っております。なぜ堅く感じられるのか、なぜハローワークの方が気軽に参加できるのか、検証する必要があると考えている場所です。

田中委員長)

- ・ 全体的にハローワークに求職に来られる方はどのような状況でしょう。

高木委員)

- ・ 以前から大きな増減はありません。

田中委員長)

- ・ 定年延長等もありますが、シニアの皆様の求職の状況はいかがでしょう。

高木委員)

- ・ ハローワーク春日井に赴任してから約2年になりますが、全体として、この地域のシニアの方の求職ニーズが高いという印象です。

山田委員)

- ・ 資料1：4ページのア：現役労働者セミナーについて、令和4年12月に開催したセミナーには4の方が参加されました。
- ・ 就労に精一杯であることや、70歳までは働く方が多いこともあり、現状として、60歳代にボランティアに取り組まれる方がなかなかおりません。
- ・ 最近、思うこととして、高齢者の学習意欲が高いと感じるところであり、講演会や勉強会には本当に多くの方が参加されます。来週開催する講演会には、約100人の方から応募がありました。
- ・ また、学校や保育園、幼稚園には図書館の出前がありますが、サロンなどでも本を読みたいという方が非常に多くいます。図書館からは、本を取りに来れるサロンであれば、応援できるかもしれないとのことであり、今後に向けては、高齢者の学習や文化、教養に対して、支援していけると良いと感じているところです。

田中委員長)

- ・ 若いボランティアは少なくなっているように感じますが、学習意欲が高いというのは良いことだと思います。
- ・ サロンの方たちは、図書を取りに行けばご対応いただけるということでしょうか。

山田委員)

- ・ 図書館側は、取りに来てくれるのであれば、対応を検討していただけるとのことでした。

関委員)

- ・ 資料1：13ページのグラフを見ると、コロナの感染拡大により、苦戦を強いられたことを改めて感じました。窓口を担当する者としても、相談後、ご紹介する先も活動していないような状況でありましたので、対応が難しい時期でした。
- ・ こまき団体情報ガイドブックという小牧市の市民活動団体の情報をまとめており、3年に一回の更新が今年度になりますが、コロナ禍で3年間を経て、もう活動されないという連絡が多い印象です。まだ、正確な数字は出ておりませんが、市民活動にもコロナの影響が大きいと思っております。
- ・ また、資料1：15ページにもあるように、既存の団体に新たに個人が入り、活動を始めることはハードルが高いと感じているところです。
- ・ 個人から見た団体は、具体的な活動内容が分からず、また、団体の活動に一度参加すると簡単に抜けられなくなることを危惧されるように考えます。
- ・ また、団体側も、活動を新たに引き継いでいきたい、担い手不足と言っておきながら、引き継いでいくという意識があまりみられないところもあり、両方の問題があ

ると考えております。

- ・ そのような中、資料1：15ページの一番下にあります地域ニーズ、課題の細分化、スポット参加など新たな仕組みづくりということについては、来年度以降、我々も力を入れてやっていきたいと考えているところです。
- ・ 例えば、市民活動団体やボランティア団体は、先に地域課題を考える傾向にありますが、サロンをやっている方は、自分たちが支え合う場を作っていく、助け合いの考え方で活動をしていることが多いように思います。
- ・ 活動への参加のハードルを下げるためには、例えばワクティブこまきで実施する事業などでスポット的にお手伝いできる手法を取り入れたり、団体の活動場所まで赴かなくても、ワクティブこまきに相談をされた方がその場で催しの準備等を通して、地域貢献につながる、ボランティアを少しお手伝いができる環境を整備することで、ワクティブこまきへの来場者を増やすとともに、団体側から寄せられる人材の不足の解消に向け、お声かけさせていただけるような関係づくりや信頼づくりが非常に大切だと感じています。
- ・ 今年度、開催したLINE講座については、ボランティアマッチングDAYとは異なり、特にボランティアに取り組みたい方だけを対象としたものではなく、LINEに関心がある方から応募していただく中で開催したものです。
- ・ 受講者と話をしていると、生きがい＝ボランティアではないことに気づくことができたところです。
- ・ 生きがいづくりが重要と考えているものの、生活が豊かであり、学習意欲がある方からすると、地域課題を知らない方もおり、日常生活を送りながら興味のあることに参加するという考えが一般的なことだと思います。
- ・ こうした考えに触れる中、少しギャップを感じたところであり、こうしたことを踏まえ、市民の皆さんと接する市民活動ネットワークとして、今後のアプローチの手法を再検討する必要があると思っております。
- ・ また、そうした方に対して、多くのメニューを出す必要があると感じているところです。具体的には、ヘビーなものだと地域課題であり、ライトなものだと自らの健康に関すること、または、スマホ教室等などが挙げられると考えます。
- ・ こうしたライトな取組みを実施することで、ワクティブこまきに来ていただき、ボランティアの支援をしている機関であることを認知してもらうことが重要と考えます。さらに、こうしたボランティアなどに興味を持った方たちを離さずに、これからも継続的な情報を伝えたり、将来的には地域課題に関わっていただくような支援ができればと思っております。
- ・ 本事業としては、アクティブシニアが対象になりますが、世代を切り離して考えるのではなく、若年層や現役労働者の方々も同じような仕組みで働きかけをして、多くの人に関わる雰囲気や伝わるような仕組みづくりが必要だと思っております。

田中委員長)

- ・ 団体が高齢化により、存続できないということを耳にする機会もありますが、一方で、まだ活動するモチベーションがある方もいますので、丁寧に支援することが大

切であり、入口として多くのメニューを出すというところも、今後の人材の裾野を広げる意味でも今後のヒントがあるように思います。

- ・ ちなみに、ボランティアマッチング DAY はどのような様子でしたか。

関委員)

- ・ ボランティアマッチング DAY は、広く募集をかけ、9 団体に出展いただきました。
- ・ ブースを設けるだけでなく、団体の活動を PR する時間を設け、その後、各々が興味のある団体のブースに行くことで、マッチングをするというような形式で実施しました。
- ・ ボランティアマッチング DAY は、ボランティア団体と出会うというコンセプトで開催しているので、参加された方たちはボランティアに関心が高く、ブースに行った時点で活動に参加したい意向を示される方もおりました。
- ・ 参加人数は 33 名であり、各ブースに行った方は 10 名にも満たない数でしたが、団体側としてはマッチングにつながったので、満足されていたようです。
- ・ 例えば、外国人に向けた学習支援をする団体に興味を持たれた方は、自らスキルを活かした明確なイメージがありましたので、その場ですぐにマッチングができたということもありました。全体的に、団体からも参加者の方からも好評でありました。
- ・ ボランティアマッチング DAY の後も、団体からスケジュールを聞き取ることで、参加できなかった方や団体を周知するために、「こまボラ」という冊子を作成しております。
- ・ こまボラにより、当日参加されなかった方もワクティブこまきに来場し、団体の活動を知ることができるようになった中で、早速、団体に参加したいという連絡があったようなので、少しずつ、成果に結びついている実感があります。
- ・ ボランティアマッチング DAY の来場は市公式 LINE による PR も重要でありましたが、こまボラという冊子があることで、ワクティブこまきに来場された方にお渡しできる情報あることは大きいと感じます。
- ・ また、お互い現場で初めて顔を合わせるのではなく、ボランティアマッチング DAY のように事前にプレゼンを聞き、直接ブースでコミュニケーションを取ることで、お試しができるということは非常に大きいと感じています。

(2) 令和 4 年度 次年度の事業計画について

- ・ 資料 1 (16～17 ページ) を用いて事務局より説明。

廣畑委員)

- ・ シルバー人材センターでは、令和 5 年度から 4 か年の中期計画を策定しており、4 月には完成し、会員に配布し、ホームページにも掲載していきます。
- ・ その計画で最も重要となる課題が会員の増強です。
- ・ 以前は 60 代で会員になる方が多くいましたが、65 歳を過ぎても入られず、70 歳を過ぎてから会員になる方が増加しています。企業の継続雇用が進んでいることで、会員に加入状況にも変化が生じています。その中で、男性に比べ、女性の方が家にいる方もいますので、女性会員の開拓も中期計画には入っております。
- ・ また、シルバー人材センターとして、ボランティアに取り組んでいることは小牧山

や小牧市市民会館の掃除、美化ボランティアです。

- ・ コロナ禍においては、役員だけで取り組んでおりますが、今度の小牧山の美化ボランティアは全会員に周知して実施したいと思っております。
- ・ シルバー人材センターの組織としては、地域班があまり活動できていない状況なので、美化活動だけでなく、ボランティア活動の活性化という部分の模索を考えておりますので、今後、皆様に相談することもあるかもしれません。
- ・ 技能講習は、さまざまな講習をしたいと思っておりますが、シルバー人材センターの事務所で開催していますので、ワクティブこまきでも講座を開催したいと思っております。
- ・ ワクティブこまきでは、入会説明会を2月に開催し、女性は9名、男性は2名参加いただきました。例えば、シルバー人材センターだけではなく、別の事業の説明会を同時に開催したり、講座等も共同で開催するようにすれば、さらに活性化できるのではないかと感じております。
- ・ また、中期計画の中には健康づくりを重要なテーマで入れております。シルバー人材センターとのタイアップということで講師を呼んで、シルバー人材センターの会員だけではなく、一般の高齢者の方ともに、さまざまな講座を開催していきたいと考えております。

高木委員)

- ・ 働くというところもセカンドライフになるかと思っております。その足掛かりとなる相談をワクティブこまきの総合相談窓口において、実施していきたいと思っております。
- ・ さらには、次年度も面接会や面談会等を開催して、少しでも就労に結びつけられるよう活動をしていきたいと考えております。

山田委員)

- ・ 毎年、災害ボランティア養成講座を実施しておりますが、今年参加していただく方は40代から60代が多く、ボランティアの内容が魅力あるものだと、多くの方が参加されます。手話や点字、点訳等、人のためになることが明確であることや、自分でもやれること、そのような内容の講座には参加者は集まってきますので、PRをしつつ、実施していきたいと思っております。
- ・ また、活動内容が分かりにくいボランティアもありますので、一般の方にも分かりやすいようにPR方法も検討したいと思っております。

関委員)

- ・ 来年度、講師を外部から呼ばなくとも、例えば事務局内で認識する課題があれば、ワクティブこまきの事務局スタッフで小さい講座を開催したり、相談会のようなことも定期的に開催したいと考えております。
- ・ ボランティアマッチング DAY は来年度も継続して、開催する予定ですが、例えば団体に入りたいという明確な目標を持っていないようなアクティブシニアの方に向けて、どのような方にどのような仕事を担ってほしいかという最終的なゴールやビジョンを明確にする必要があると思っております。

- ・ 総合相談窓口に来られた方にお勧めしたり、提案するメニューが豊富でないとその次に繋がらないので、窓口の相談件数を増やすことも重要ですが、相談される方をどのように繋いでいくかということ改めて、検討したいと思っております。

田中委員長)

- ・ 委員の皆様から令和5年度の計画を含め、これからのシニア活動に向けてご意見をいただきました。
- ・ モデル事業で関係機関の皆様とともに事業を推進する場ができたことや、市民としても相談できる窓口があり、それに対して提案するさまざまなメニューがあるという体制を整備できたことは非常に大きいことだと思っております。
- ・ 今回をもって、3カ年のモデル事業として委員会は終了になりますが、ただいま、事務局と各機関から説明があったように、次年度以降も本事業については発展的に継続していくことになるとのことですので、シニアをはじめ、地域活動の活性化に向けた取組みを期待したいと考えております。

(3) その他

- ・ 事務局より次年度以降の事業展開について、説明。

3. 閉会